

# 病弱・身体虚弱教育における『主体的・対話的で深い学び』の視点での授業づくり ～特別支援学校の実際～

## 特別支援学校の現状と課題

- ・筋ジストロフィーなどの神経・筋疾患や心身症、糖尿病、内分泌疾患等起因疾患の多様化
- ・生活規制や、運動・動作の障がいなどの病気による種々の制限
- ・病気の状態や生活規制による学習空白や遅れ、身体活動の制約などによる学習意欲の低下



病弱・身体虚弱のある児童生徒の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、様々な制限があっても、学び合い、かかわり合いを促す工夫についてとりまとめ、広めていく必要がある。

### 研究協力校

#### 北海道八雲養護学校

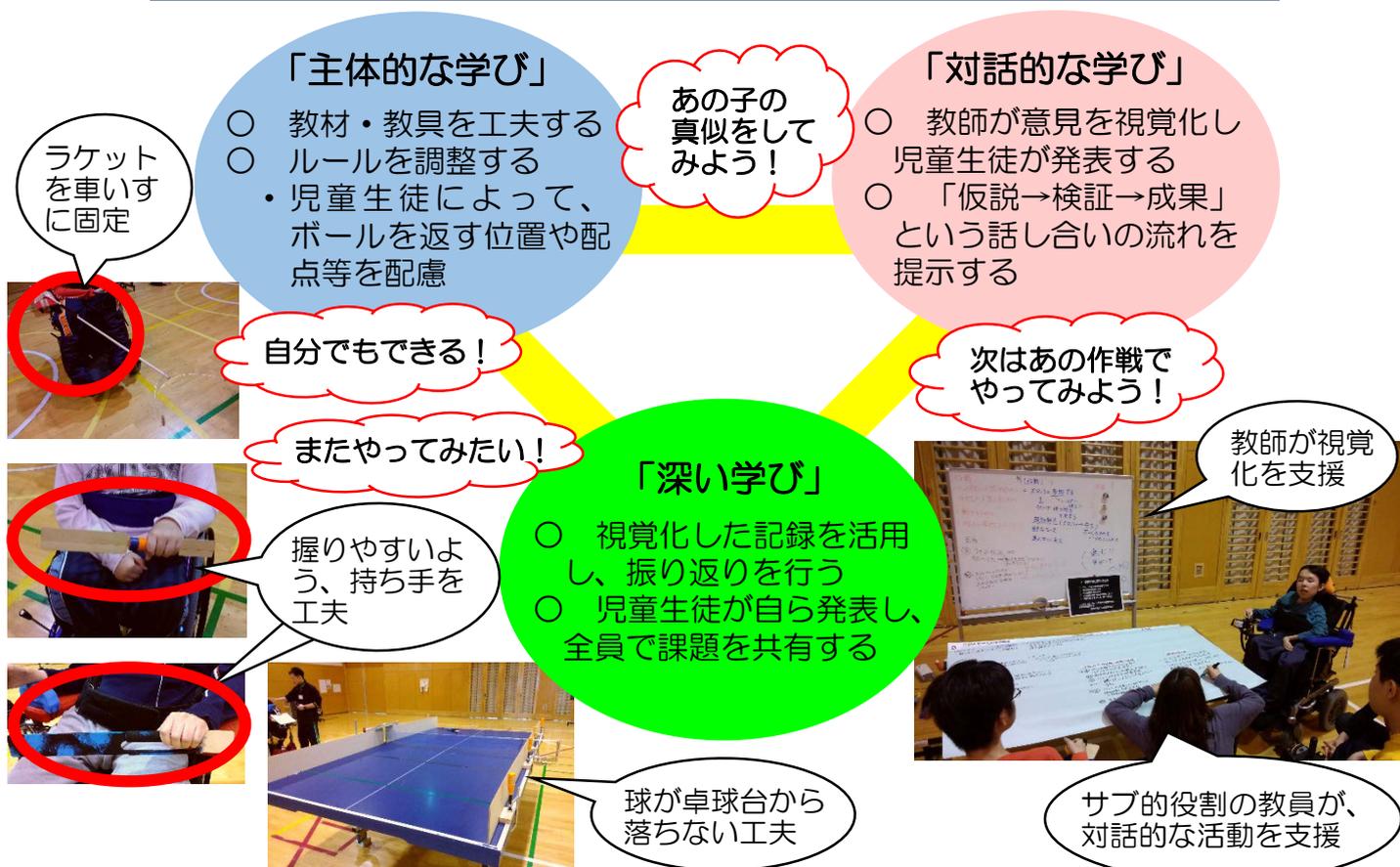
- 隣接する呼吸管理等で高度かつ先進的な医療技術を持つ『国立病院機構八雲病院』に入院している神経筋疾患や重症心身障がいなどの病弱なお子さんが教育の対象
- 小学生から高校生までの児童生徒が在籍

（平成29年度学校要覧）

### 事例の概要

- 学 年：小・中学部、高等部の児童生徒12名
- 単元名：体育「卓球」
- ＜事例のポイント＞
  - ・児童生徒一人一人に合わせた教材やルールを設定
  - ・ゲームの作戦会議や敗因の原因を話し合い、発表する場を設定

## 事例による『主体的・対話的で深い学び』を促すための工夫



### 【成果】

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業の手立てを整理し、それぞれの手立てによって児童生徒が、意欲的に授業に参加したり、課題解決に向けて思考したりすることができた。

### 【課題】

- ・多様化する病弱・身体虚弱教育対象の児童生徒を指導する教員が、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、事例を通して理解を深められるよう、全道への周知を図る。